学校番号	122

平成31年度　　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「美術２」　（光村出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・美術Ⅰで学んだことを生活において実用的に使えるよう、表現では自己や社会などを深く見つめた主題にしている。また、それぞれの表現の原理を解説することで、美術文化について理解を深めることができるよう指導する。
・鑑賞では、他者の作品を鑑賞し意見を交換することで、作品や作者の個性などについての多様な見方ができるようになり、個性豊かな美術の能力を高められるよう指導する。

2　学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創作活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創作活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、しっかりとした意図で表現する。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を工夫している。	鑑賞を通して、美術作品などの表現手段や技法などを理解し、その背景も含めて良さを味わおうとする。
評価方法	制作の様子、学習活動からの関心、意欲、作品への取り組み	制作への準備、学習活動からの関心、意欲、制作途中の作品評価	創意工夫、学習活動からの関心、意欲、制作途中の作品評価	発言・質問内容、学習活動からの制作意欲、自身のこだわり、作品評価

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
1学期	デザイン造形演習	**〔デザイン〕〔立体〕** **・オリエンテーション** **・ウォールアート～ピクトグラム（視覚伝達の重要性を理解する。）** **・陶芸の基礎知識を学ぶ。**	○	○	○	○	a:簡略化を目的としたデザイン表現。 b:重要な箇所とそうでない箇所の判断を表現。 c:陶芸の釉薬を除く技術の習得他。 d:デザイン、陶芸に対する知識理解他。	学習活動からの関心・意欲・態度 作品評価
2学期	芸術祭 絵画 折り紙建築	**〔絵画〕〔折り紙建築〕〔鑑賞〕** **・自分の心情をアクリル画にてシュールに表現する。** **・芸術祭にて出品作品をじっくり鑑賞し、レポートを提出。** **・折り紙建築の技法を理解し、グリーティングカードへ展開する。**	○	○	○	○	a:名画を鑑賞した後、自分の心境を絵画にて表現することへの意欲、関心他。 b:芸術祭メイン課題であり、「自分の現在の心境を伝える」ことを絵画で表現することに対する表現力他。 c:リアルに描くことや、ポップアップする折り紙建築技法の技術習得他。 d:ポップアップさせるためには、どことどこの長さをそろえたり、受け取る人に感動を与えるような工夫を理解する。	学習活動からの関心・意欲・態度 作品評価 鑑賞レポート
3学期	造形演習	**〔立体〕** **・スタイロフォームを用いて、テーマに沿ったものを立体で表現する。プロの素材に触れ、サンディングの重要性を学ぶ。**	○	○	○	○	a:プロの素材に対する興味、関心そしてこれからの制作意欲他。 b:与えられたテーマを立体でどう表現するのか？ c:カッターナイフの使い分けと、サンディング技術、仕上げ他。 d:最初は大胆に、仕上げは繊細にと、失敗が許されないことへの作業手順理解他。	学習活動からの関心・意欲・態度・創意工夫 作品評価

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　b:発想や構想の能力　c:創造的な技能　d:鑑賞の能力
※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。